

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山國秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(アンダーボトリック/博報堂DENTSU/ムービー・エージェンシー/ギャガ/11西日本コミュニケーションズ/アオイビート/アイ/アムーズ/河北新報社/東日本放送/シネマ) 助成: ●文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: ギャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GAGA GROUP



親子の物語が、そしてひとりのコウダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく……。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。

＊コウダはきこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県のある小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、「大」と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

っては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」佐久市上映会

2026年 **1月31日(土)** 佐久市コスモホール 大ホール

①10:30 ②13:30

満席の際は次回にお回りいただくこともございます

前売券 一般・シニア・大学生 1200円

当日券 一般・シニア1500円 大学生1300円 小中高生800円

【前売券取扱所】
佐久市コスモホール
(0267-82-3962)

【主催】「ぼくが生きてる、ふたつの世界」佐久市上映実行委員会

【構成団体】佐久市議会、佐久市社会福祉協議会、佐久商工会議所、佐久商工会議所青年部、佐久青年会議所、佐久市身体障害者福祉協会、佐久ライオンズクラブ、佐久コスモスロータリークラブ、佐久手話サークル、南佐久手話サークル、美・サイレント手話学習会、ハッピーロード手話学習会、佐久人権擁護委員協議会、国際ソロブチミスト佐久、佐久平倫理法人会、佐久市PTA連合会父親母親文庫委員会、佐久市文化事業団、南相木村、小海町、南佐久ロータリークラブ、佐久南倫理法人会、佐久穂町、佐久穂町社会福祉協議会、佐久穂町身体障害者福祉協会、川上村、南牧村、北相木村

【共催】信濃毎日新聞社 【後援】佐久市教育委員会 【サポーター】ALLaNHILLZ(アランヒルズ)

【お問合せ】「ぼくが生きてる、ふたつの世界」佐久市上映実行委員会 事務局

佐久聴覚障害者協会、佐久市福祉課 障害福祉係 0267-62-2111(内線296)